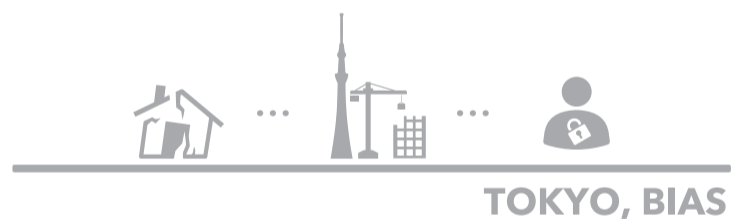


BYB

EVACUATION GUIDANCE SYSTEM
LINKED WITH DISASTER DRILL



BACKGROUND



変化する東京、 過信や思い込み “バイアス”

人やモノが急速に移り変わっていく大都市・東京、生活に根付いた災害の記憶や防災の知恵が失われ、防災の他人への依存、思い込みや過信“バイアス”を生んでしまう「この建物は地震でも壊れない」「隣の人が避難したら避難しよう」「ここに津波は来ない」…

CONCEPT



現状を疑い成長し続ける “生活の一部” としての防災

現状に満足せず、災害の記憶や防災の知恵を更新し続けることで、一人一人のバイアスの克服や、防災意識の向上・維持だけでなく、外国人をはじめとした滞在者を「守る」ことにつながる

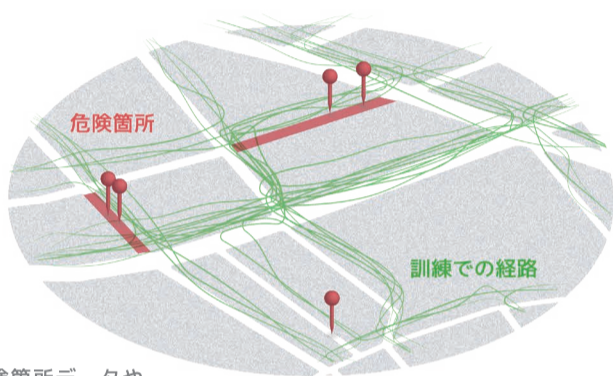


柔軟に変化していく防災システムにより災害の記憶を未来に伝え時代に合わせた防災を可能にする、スマート社会における避難誘導システムを目指す

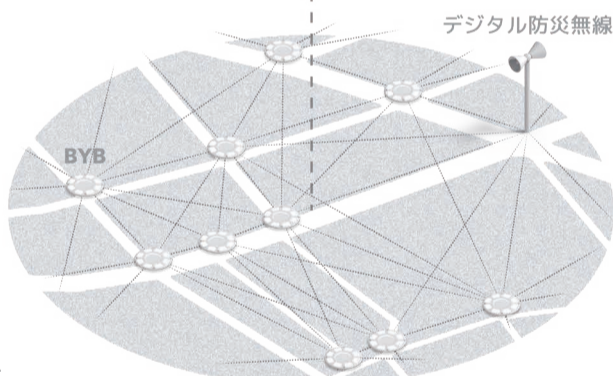


自宅や職場・学校などから避難場所まで想定される避難経路を実際に歩くことで、BYB アプリケーションが時間と経路を記録、危険を感じる経路があればアプリケーションの「危険」ボタンを押し、共有する

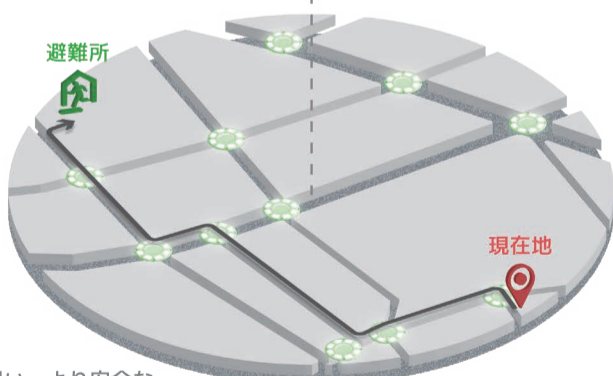
SYSTEM



避難訓練
訓練による経路・危険箇所データや、交通量などのデータから AI が処理、危険の多い経路は不適切と判断される



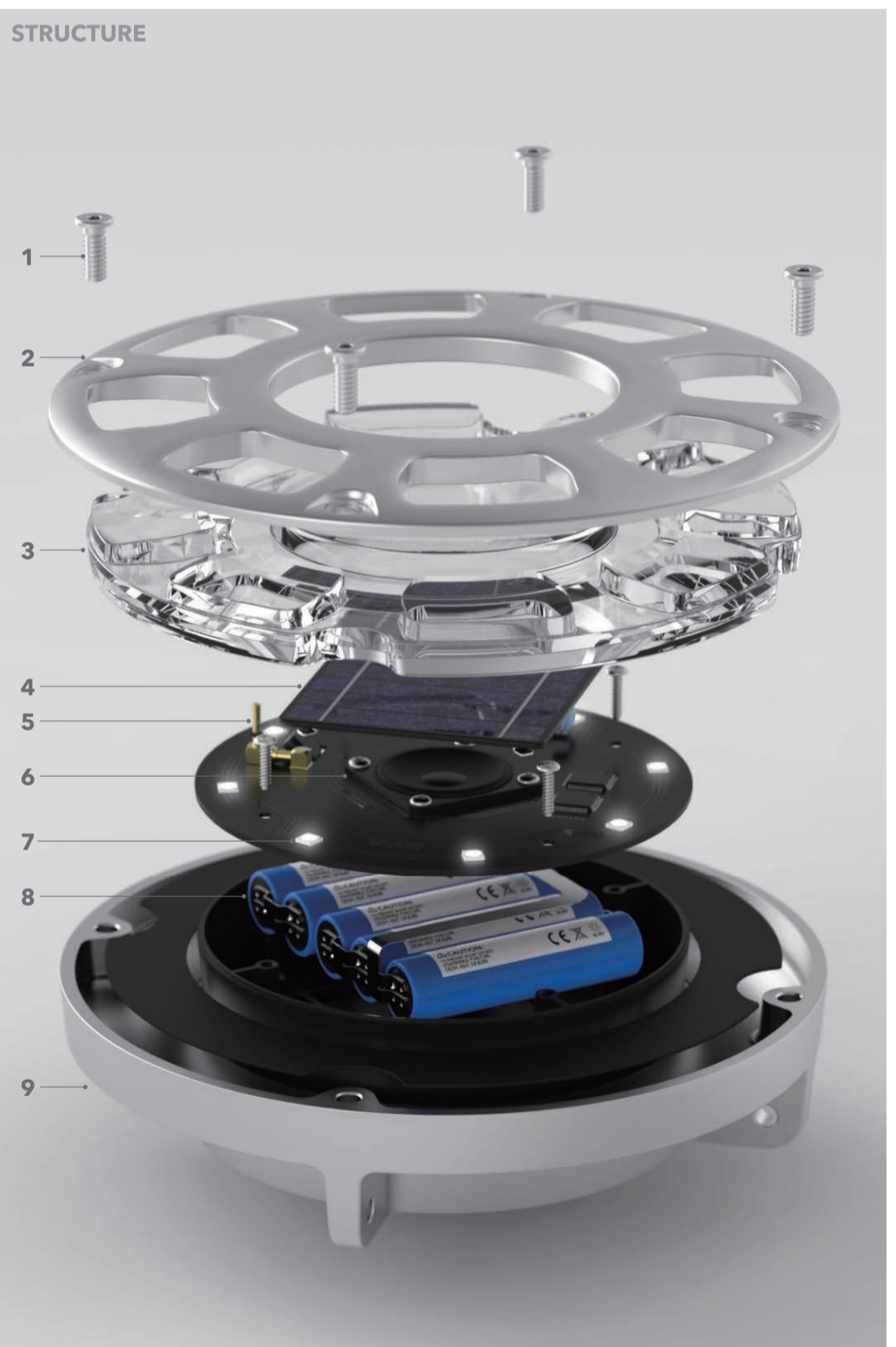
情報通信システム
ワイヤレスメッシュネットワークを用い誘導灯に災害情報・避難経路情報を伝達、デジタル防災無線と連動する



避難誘導
誘導灯が光と音声を用い、より安全な経路へ誘導、避難の集中が予想される経路は他の経路へ分散される

経路や危険箇所のデータを共有・蓄積

STRUCTURE



DESIGN POINT

ワイヤレスメッシュネットワークにより、確実に柔軟な誘導に加え、デジタル防災無線との連動が可能になる (平時は Wi-Fi のアクセスポイントとして利用できる)

太陽電池・蓄電池を内蔵し自立電源を確保することで、災害時外部電源に頼らない確実な避難誘導、設置の容易さにつながる

災害時、最小限の情報量の直感的誘導で、幅広い人々のとっさの判断が可能になると考えた (Arduino, LED を用いたプロトタイプにより検討した)

- 1- 六角穴付ボルト
- 2- 上ケース (アルミニウム合金製)
- 3- カバーレンズ (ポリカーボネート製)
- 4- 太陽電池
- 5- アンテナ端子 (上ケースがアンテナとして機能)
- 6- スピーカー
- 7- LED
- 8- バッテリー (ニッケル水素電池)
- 9- 下ケース (アルミニウム合金製)

